

第3分科会「社会教育委員の役割」

〔討議の視点〕

地域の課題解決のために主体的に取り組む社会教育委員の活動について

〔討議の柱〕

- 1 社会教育委員として、どのように地域のニーズや課題をとらえればよいか
- 2 社会教育委員として、課題解決に向けたビジョン（方向性や方策の検討・決定）をどのように生み出せば（作り出せば）よいか

〔事例発表者〕	1 福岡県宇美町社会教育委員	古賀ひろ子 藤木 邦彦
	2 沖縄県・宮古島市社会教育委員	島尻 郁子
〔助言者〕	福岡県教育庁福岡教育事務所社会教育室主任社会教育主事	森田 明敬
〔司会者〕	沖縄県教育庁生涯学習振興課社会教育班長	田場 勝
〔記録者〕	宮崎県教育庁生涯学習課社会・家庭教育担当社会教育主事	満園真由美
	宮崎県教育庁南部教育事務所家庭・地域教育担当社会教育主事	山田 高大
〔分科会責任者〕	宮崎県社会教育委員連絡協議会理事	西 誠
〔会場総括〕	宮崎県宮崎地区社会教育委員連絡協議会委員	駒山 二生
〔分科会事務局〕	宮崎県教育庁生涯学習課生涯学習推進担当主幹	大津 新



発表要旨

1 発表1 「宇美町社会教育委員が取り組む“家庭教育の振興方策”について」 ～「食育に関する調査研究」「あいさつ・声かけ運動」～

福岡県宇美町社会教育委員 古賀ひろ子、藤木 邦彦

宇美町では、毎月1回の社会教育委員の定例会議の中で、平成16年度から継続して「家庭教育の振興方策」を活動テーマとして協議、調査、研究を行っている。平成22、23年度は、「食育に関する調査研究」、「早寝早起き朝ごはん・読書活動・あいさつ運動連携プロジェクト」の推進に取り組んできた。

「食育に関する調査研究」では、調査結果や報告から子どもの食生活をめぐる課題について明らかにし、その課題解決のために「うみっ子食育推進7か条(実践)」食育推進カレンダーを町内全児童生徒へ配付しており、学校で活用されている。また、町の広報誌やHPに掲載することで町民への啓発も行っている。

「早寝早起き朝ごはん・読書活動・あいさつ運動連携プロジェクト」では、行政や学校、家庭、地域が同時期に連携を意識して取り組むことで、子どもの生活習慣の改善や読書活動の充実を目指している。また、「あいさつチャンピオン大会」や「あいさつ声かけ運動」街頭啓発にも取り組んでいる。

家庭の事情に合った取り組みやすい改善策や事業の継続が、今後の課題である。

2 発表2 「社会教育委員の強みを活かしたコミュニティの形成」 ～ボランティア団体「みゃ～くの会」の活動を通して～

沖縄県・宮古島市社会教育委員 島尻 郁子

平成21年度に社会教育委員を中心としたボランティア団体「みゃ～くの会」を立ち上げ、医療・保健・福祉・教育、他職種間の連携を図ることにより、地域貢献の在り方の指針を示し、団塊の世代を巻き込んだ地域づくりを目指した活動を展開している。

具体的には、沖縄県立看護大学の「島の環境を活かして学ぶ保健看護の教育実践」に関わり、実習の年間計画に沿って、民泊先の調整、送迎に関わるボランティアの確保と調整、文化歴史講座の講師との打合せ等を行っている。

平成22年度から平成23年度にかけて活動の幅が広がり、宮古島を実習地として希望する学生が増えたばかりでなく、卒業後の勤務先として自ら進んで県立宮古病院を選択する学生が3年間で5名という実績をあげている。

県立看護大学への協力という捉え方だけではなく、医療・保健・福祉・教育における人材育成を地域全体のこととして広げ、社会教育委員のそれぞれのネットワークを活かし、息の長い活動へ展開できる仕組みを構築することが課題である。

質疑応答

1 発表1について

- Q 平成16年度から継続して協議、調査、研究を行っているとのことであったが、教育委員会からの諮問があったのか。また、食育の取組についての予算化及び生涯学習課との連携はあったのか。〔福岡県〕
- A 諮問を受けている。特別に予算化はしていない。毎月の会議に課長をはじめ社会教育課職員3、4名が参加しており、連携して取り組んでいる。〔発表者〕
- Q 「早寝早起き朝ごはん・読書活動・あいさつ運動連携プロジェクト」は社会教育委員が主体となって呼びかけたのか、合同会議を行ったのか。また、のぼり旗等の予算はどうしたのか。〔福岡県〕
- A 青少年育成町民会議には社会教育関係団体が集まっており、年に6回の役員会と1回の全体会、総会を行っている。のぼり旗は手作りで予算はかかっている。街頭啓発のジャンパーは、青少年育成町民会議の予算である。〔発表者〕
- Q 定例会を月1回と頻繁に開催しているが、資料準備や会議の内容、進行等はどのような方法で行っているのか。〔大分県〕
- A 資料作成は社会教育課にお願いしている。内容は、座談会方式で各自情報を出し合う。その後、定例の協議に入っている。〔発表者〕

2 発表2について

- Q 表題にある「社会教育委員の強み」とは何か説明してほしい。〔福岡県〕
- A ボランティア団体「みゃ～くの会」を立ち上げ、沖縄県立看護大学との取組が始まった時に社会教育委員だったというだけでなく、活動をしていく中で社会教育とのつながりが大事であるとわかってきた。社会教育委員として、いろいろな分野、研究会に関わっていき、社会教育委員のそれぞれの人脈を活かしていった。そこを強みとした。成果としても見えてきたので、社会教育委員の強みを活かした取組として、タイトルにしたものである。〔発表者〕
- Q 医療的な課題に対して、社会教育委員の活動と社会福祉の活動がうまくかみ合った画期的な実践ですばらしい。〔熊本県〕
- Q 発表内容に感服している。宮古島市社会教育委員は何人いて、その内公募委員はいるのか。また「みゃ～くの会」に所属している委員は何人いるか。会議は年に何回開催しているのか。〔宮崎県〕
- A 社会教育委員は10人で、「みゃ～くの会」の会員が2人おり、他の委員も「みゃ～くの会」の取組に関心を寄せている。年5回会議を開いている。公募については分からないが、推薦ではないだろうか。〔発表者〕

研究協議

1 討議の柱1について

2 討議の柱2について

- ・あいさつ運動について、各家庭に対するアプローチをどうしたかが知りたい。〔福岡県〕
- ・地域でなぜあいさつ運動なのか。なぜ食育なのか。地域としての課題性をどうとらえたのか知りたい。〔福岡県〕
- ・あいさつは、基本的な生活習慣として、家庭教育のまず第一歩として取り上げた。各家庭へのアプローチについては、大人の教育は難しいが子どもの教育はスピーディであるので、子どもから大人を変えようとした。〔発表者〕
- ・中学校が荒れていた時期があったことから、学校・家庭・地域であいさつ運動に取り組むきっかけとなった。社会教育委員が家庭の中に入っていくのは難しいので、地域力の向上を図ろうとしている。地域を通じて、子どもが学んでいくことを期待している。〔福岡県〕
- ・あいさつ運動の矛先が子どもに向いている。残念ながら子どもの親があいさつをしないという現状がある。親があいさつをすれば子どももする。親があいさつをするように仕向ける取組は考えられないか。〔鹿児島県〕
- ・あいさつ運動は、元々地域の絆の希薄化、地域の人が地域の子を知らないということから始まった。きちんとした人間関係をつくるのが大切である。地域の課題を発見するために、不登校の相談員をしているが、朝ごはんを食べられない子どももいる。社会教育と福祉は密接な関係があるが、社会教育委員は福祉に入り込めない。地域の課題について、委員として考えること、委員会として考える場合がある。〔福岡県〕
- ・社会教育委員の強みは、ネットワークだと考える。ネットワークがあるから活動ができる。それを活かしてコミュニティを形成していく。〔福岡県〕
- ・社会教育委員の担う範囲があいさつ運動から食育までと広い。沖縄県の発表のように大学や幼稚園等とも連携していきたい。自分の領域だけではなく幅広い視野で課題をとらえ、情報を分かち合って活動を進めていきたい。行政側も課をまたいで、情報を共有していく必要がある。〔大分県〕
- ・3年前から子どもたちに本を贈る活動をしている。社会教育委員だからするのではなくて、何かの目的で何かをやるうとする時に、裾野を広げていくこと、協力者を増やしていくことが社会教育委員の役割であると考え。〔鹿児島県〕
- ・社会教育委員の役割は社会教育法に載っているだけではない。時代が変わると委員の役割も変わり、課題も変わる。先をよむことが大切である。〔沖縄県〕
- ・活動をする中で、大事な中心が必要である。本町では、町のトップである町長が全ての分野で、取組内容を検証する会を実施している。〔熊本県〕

まとめ

1 社会教育委員の本来の在り方について

- ・ 委員とは、提言者、つまり意見を言う人である。社会教育とは、人づくり、町づくりである。社会教育委員とは、人を育て町を育てるために、意見を集約してつないでいく人である。
- ・ 地域のニーズや課題をとらえ、国は何を求めているのか、地域では何が課題なのかを考えて、行政へつないでいくことが大切である。
- ・ 社会教育委員は、教育委員会が必要な人を委嘱している。行政側も必要ですというアピールをしなくてはならない。それを受けて、社会教育委員は情報を集めて意見を伝えていかなくてはならない。
- ・ 「社会教育委員として何ができるか」ということを考えた時に、活動を主体的に出していく例が多く見られる。なぜその活動に取り組んだのか、それをどうつないでいったのかという視点があるとよいと考える。

2 発表1について

- ・ 研究調査から明らかになったデータをもとに、今町ではこれが必要であるというニーズを伝えているところがすばらしい。
- ・ 行政とともに取り組み、諮問を受けて答申として形にしている。また学校教育とも連携して、「食育推進カレンダー」を作成して、学校で活用してもらっている。

3 発表2について

- ・ 活動の中から、命を守るというニーズをリサーチしている。
- ・ 島という特異な地域で、住民が自主・自立しないといけない状況がある。そのために活動を行っている。
- ・ 市と県の両方の社会教育委員を務めていることで、両方に意見を出すことができる。様々な分野に委員が食い込んでいくことで、そこで出たニーズをつないでいくことができる。

4 全体について

- ・ これからは、縦と横の連携が必要である。縦とは行政機関との連携である。これまでは、委員会に意見を出せば終わりだったかもしれない。しかし、今後は、関係団体とつないで、裾野を広げて取り組んでいくことが必要である。
- ・ 縦と横の軸の中心に社会教育委員がいる。幅広いネットワークを活かして、社会教育委員だから知っている関係団体との横の広がりをつくっていききたい。
- ・ いろいろな人の意見を吸い上げて答申し、教育委員会へとつなげていく。社会教育委員は、民意を伝えることができるという大事な役割を担っている。